

令和7年度第1回府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 日 時 令和7年8月29日（金）
午後2時30分～午後3時54分
- 2 場 所 安芸府中生涯学習センター
くすのきプラザ 1階 ギャラリー
- 3 出席委員 （8人）

座 長	上之園	公 子	〔学〕
委 員	中 村	順 子	〔産〕
委 員	安 達	貴 光	〔官〕
委 員	坂 本	克 博	〔金〕
委 員	益 村	泉月珠	〔言〕
委 員	新 宅	祐 也	〔住〕
委 員	田 中	千 里	〔住〕
委 員	山 下	千 春	〔住〕
- 4 欠席委員 （1人）

委 員	原 田	悟	〔労〕
-----	-----	---	-----
- 5 議事次第
 - 1) 開会
 - 2) 町長あいさつ
 - 3) 次期府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略等について
 - 4) 閉会
- 6 町出席者

町 長	寺 尾 光 司
副 町 長	桑 原 強
教 育 長	新 田 憲 章
（各部長）	
総務企画部長	谷 口 充 寿
財 務 部 長	増 田 康 洋
町民生活部長	胡 子 幸 穂
福祉保健部長	中 本 孝 弘
建 設 部 長	磯 亀 智
区画整理担当部長	井 上 貴 文

危機管理監 佐 藤 伸 樹
消 防 長 新 宅 和 彦
教育部長 屋 敷 学

(事務局) 政 策 企 画 課 長 藤 永 政 己
政策企画課課長補佐 西 山 晋

7 傍聴者数 4人

8 議事の内容

(午後2時30分開会)

1) 開会

○政策企画課長

皆さん、こんにちは。

私は、事務局・府中町政策企画課長の藤永と申します。本日は、どうぞよろしく申し上げます。

また、本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、「府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議」を開会いたします。

なお、議事の進行につきましては、昨年度の書面開催による有識者会議にて座長に選出されました上之園委員により、議事を進めていただくようになりますが、委員の紹介・資料確認までは事務局で進めさせていただき、そこからの議事につきましては、座長にお願いをしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(事務局にて委員の紹介・資料確認)

ここからは、座長に議事の進行をお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

(進行役交代)

○座長（上之園委員）

昨年、座長にご指名をいただきました、上之園でございます。

それぞれの分野でご活躍されておられる皆さんから、忌憚のないご意見をお聞きできるよう、円滑な議事進行に努めてまいりたいと思います。皆さんのご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事前にお配りしております「会議次第」に沿って進めてまいります。

まず初めに、開会にあたり、寺尾町長より、ご挨拶をお願いいたします。

2) 町長あいさつ

○町長

令和7年度第1回府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、公私ともにお忙しい中、まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。

この有識者会議は、昨年度は書面開催、書面審議をお願いしたということで、このように対面で開催するのは、私が昨年6月に町長就任以来、初めてになります。コロナ禍などもあり、当分の間、対面開催ができていなかったとのことであり、久しぶりの有識者会議となります。私自身は、町職員時代や議員の時、この会議を傍聴しておりました。人口減少の課題に対して「子育て世代が居住を選択するまち」をコンセプトに様々な施策を進められてきたと理解しています。

そもそも、本会議は、平成26年に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく、地方創生に関する施策の基本的な計画である「総合戦略」について、産・官・学・金・労・言の各分野の関係者や、住民の代表など、様々な分野でご活躍されている委員の皆様からご意見・ご提言をいただくことを目的に設置いたしております。

町では、平成27年に、平成27年から令和2年までの第1期の総合戦略を、令和2年に、令和3年から令和7年までの第2期の総合戦略を策定し、委員の皆様方に進捗状況等を報告させていただいております。

また、国の地方創生に関連する最新の動向として、石破政権が発足し、本年6月に「地方創生2.0基本構想」が閣議決定され、新たな姿勢及び視点を盛り込んだ国の方針が示されました。

基本的な考え方として「当面は人口減少を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていく」こととし、そのために「人を大事にする地域、楽しく働き暮らせる地域を創る。」「災害に対して地方を取り残さないよう、都市に加えて地方を守る」ことを基本姿勢としています。

本日は、こういった背景、また、本町では現在、次期10か年計画、第5次総合計画を策定中でもあり、これらを踏まえて、本町の次期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の方向性について、ご報告させていただきます。

委員の皆様におかれましては、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思います。

それでは本日はよろしく願いいたします。

4) 資料説明・意見交換

議事：次期府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略等について

(資料について事務局から説明)

○座長（上之園委員）

ありがとうございました。

では、本日の議題である、「次期府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略等について」につきまして、皆さんからのご意見等を幅広くお聞きできたらと思います。

ご意見等がございましたら、お願いいたします。

○安達委員

次期総合戦略における策定の方向性については、総合計画に総合戦略を包含させ、総合計画と一体化するという説明がありました。町では、総合計画の策定を今年度検討されており、先ほど計画の基本構想原案の説明もありましたが、あくまでもこの有識者会議では、総合戦略における実績や今後5年間の取組について話し合うという認識でよろしいでしょうか。

○政策企画課課長補佐

有識者会議は、総合戦略の取組等について各分野の専門家である委員の皆様から意見を伺い、参考とさせていただくものと位置付けています。総合計画の策定に関しては総合計画審議会にてご意見等を伺っていますので、有識者会議では総合戦略の取組等について、それぞれの知見を踏まえご発言いただければと思います。

○山下委員

子どもたちを見続けて25年ほどになりますが、現在、気になっているのは町内の公園の利用率がとても低いことです。公園で遊ばなくなった理由として、利用する上での規制が厳しくなったこともあるとは思いますが、決して子どもたちが外で遊びたくなくなったわけではないと思います。実際にいろんなところに連れて行っても、無邪気に走り回るし、遊び回ると思います。規制が厳しくなったことで公園が縁の無い場所になってしまっているのでは

ないかということが気になっています。

話は変わりますが、65歳以上の方が町内で健康運動をされている姿を見て、とても良い活動だと思いました。私はサービスカウンターで働いていますが、お年寄りの行き場がなく、認知症の方が増えていることが気になっています。活動できる場所が少なくなり、コミュニケーションを取る機会が減少し、家に閉じこもっている方もいると思います。皆で健康になろうという取組はぜひ町内でやっていただきたいです。健康にもなりますし、コミュニケーションを取ることで繋がりが広がると思います。

○田中委員

小学校や幼稚園に入らせていただき、先生方が子どもの細かいところまで見ており、また、子どもが発している雰囲気も感じ取って動かれているので、大変だと思っています。先生方を支えるコミュニティに入ってもらえる保護者やボランティアが不足していることも気になっています。

○新宅委員

児童センターの利用者数が総合戦略のKPIの一つとしてありますが、参考資料1のとおり、年々実績値が上がっています。本日も午後1時の段階で100人近くの子どもたちが遊びに来ていました。外が暑くてなかなか遊べないということもありますが、安心・安全のため保護者が送迎をして多くの利用があります。また、町外の方々の利用もあり、利用者数が年々増加する中で、子どもが抱える課題と向き合う機会も以前より増加しています。その一つとして、共働きの家庭が増えていることもあり、欠食や兄弟だけで食事をしているという課題があると感じています。そこでお伺いしますが、事務局で、共働き世帯の割合などを把握しているのでしょうか。

児童センターの利用についての話に戻りますが、中学生や高校生の利用も多く、スタジオでライブ、ホールでダンスをするなどの子どもたちが企画し、実施するイベントなどを開催しています。府中町の大きな施設や公民館などを使用して子どもたちが自分たちで企画して実施できる状況を大きく広げられれば、若者から見てもすごく魅力的な施設になるのではないかと思います。若者と話をしながら、大人と一緒に計画をしていくことが大事だと思います。

○政策企画課長

共働き世帯の割合等のデータは持ち合わせていませんが、提供できる調査結果等がある場合は、後日、お示ししたいと思います。

○益村委員

とてもすばらしい取組を聞かせていただきました。企業でも戦略をもって

様々な活動をしています。

私は、DX における様々な取組を行っておりますので、その観点からお話をさせていただきます。DX に関しても、「地方創生 2.0」にもあるとおり、総合戦略に盛り込んでいく必要があると思います。私は広島テレビでアプリを展開しており、アプリからテレビで行われている脳トレに参加することができます。テレビを見る人が減ってきているので、アプリを使用することでテレビを見ることの価値を変えていこうと取り組んでいます。

メリットとしては、例えば、脳トレの場合、視聴者が楽しいだけではなく、演出が DX 化されているため、アナログ業務が減少し、業務の効率化に繋がっています。本日の会議でパソコンを打たれている方がたくさんいますが、AI で読み取りや録音もできるので、DX を導入することで顔と顔を合わせる時間の増加にも繋がると考えています。庁内業務の DX 化について、各部署だけでなく全庁的に考えられると良いと思います。

○坂本委員

広島銀行安芸府中支店では、来店者数が非常に多く、100 以上ある店舗の中でもトップ 20 に入るほどです。先程、益村委員からも DX についてお話がありましたが、私どもも来店された方にアプリをご紹介させていただいています。先般、府中町に訪れる機会があり、暮らしに関する諸手続きを WEB 上でできるよう準備がされているのですが、オンラインでの申請者がほとんどいないという話がありました。DX を使わず嫌いの方に対して、金融機関と行政が一体となって行動することも必要かと思いました。

話は変わりますが、資料 1 の中で分譲マンションが近年新築されていないという記載がありましたが、広島経済レポートにイオンモール広島府中の周辺にマンションが建築されるという記事がありました。また、少し離れた本町、鶴江でも建築が予定されているという話を聞きましたので、現在の転出超過の流れが少し変わるのかなと思っています。府中町エリアの不動産は価格高騰の影響もあるのか、住みたくても住めない状況になっていると思います。定住施策として次世代のための住み替えや建て替えに関する補助事業などの PR 等も重要かと思います。

資料 2 で、府中町第 5 次総合計画基本構想原案における基本目標 2 の説明文に「学校教育の充実」についての記載がありました。最近では、広島銀行が抱えているグループ会社が金融教育をする機会が増加しています。他に IT 教育やプログラミングスクールの運営も行っておりますので、お役に立てることもあるかと思います。

○中村委員

町内の人口が減少しているという説明がありましたが、府中町は住みここ

ちランキングが1位として知られていること、また、各町内会で様々なイベントを実施されていることやイオンモールがあることで活気はあると思います。

府中町は広島市内に近く、交通の利便性が良いことから府中町に引っ越したい、住んでみたいと思っている方もいると思います。商工会としても、町おこしをし、府中町の良いところを広めていきたいと思っています。

○座長（上之園委員）

それでは、お一人ずつお話をさせていただきましたが、まず私が話をして、最後に県の職員である安達委員にご意見と総括をしていただけたらと思います。教育の場からお話をさせていただきます。事務局からの説明であったように、就学期の子どもが府中町に長く暮らすことになるかどうかの一つのポイントになると思っています。府中町は住みたい町ではあるが、住宅価格の高騰やマンションの建て替えが進んでいないことから、住みたいけど住むのがちょっと難しい町になっているのではないかと思います。広島県内の僻地等の小規模校の学校研究にも関わっているのですが、過疎の町の小規模校では児童の半数以上が他地域から保護者が送迎をしている状況があり、中には家族全員がその学校区に転居して保護者が超遠距離通勤をしているという場合もあります。その理由としては、その地域には極めて特色がある学校教育を行っていることやその地域でしかできない体験がある環境で6年又は9年を過ごさせたいという想いがあるからです。住みたいけど条件が難しいから別のところに住むのではなく、絶対住みたいので少し条件が難しくても何とか住むというくらいの特色があっても良いのではと思います。府中町の住宅問題はすぐに解決しないかもしれませんが、例えば子育て、学校教育、社会教育などにおいて、広島県もしくは中四国で一番というレベルの特別の良さがあれば、ある人にとっては、他の条件があっても一番住みたいと思える町になると思います。思い付きの提案ではありますが、県内一位ではなくて、全国の中で府中町は住んでみたい憧れの町を目指してみたらどうでしょうか。

一つの例を挙げると、府中町が有料化の検討を含め積極的に待機児童ゼロに取り組むという報道があったと思います。待機児童ゼロを目指すという取組は他自治体にもあるかもしれませんが、府中町の放課後児童クラブが飛びぬけて面白い、子どもたちの指導員だけではなく、若者やシルバー世代の人たち皆が共同で活動、企画、運営を行い、作り上げていく。参加者一人ひとりがボランティアで子どものためにがんばるというよりも、楽しんで、生きがいや居場所づくりに繋げていく。全国にこういったことを発信し、府中町の放課後児童クラブが面白いから、無理してでも住みたいと思ってもらう。そういった取組ができれば良いと思います。

多くの施策があると思いますが、府中町だからこそといった、全国的に見ても珍しい取組について、無理なくできるようなことを考えてみてはどうでしょうか。

少しくらい無理でも何とかして住みたい府中町になると良いなと思います。

○安達委員

先程の府中町の放課後児童クラブの話は、キャッチーであり全国に発信できれば、このような取組は尖った施策として注目を集めることになると思います。県内の他自治体になりますが、ある地区の学校に通わせたいから、東京から移住された方がいると聞いていますが、尖った施策を打ち出すことで注目を集め、まちの魅力を知ってもらう一つのきっかけになると思います。事務局の説明によると、総合計画に関するアンケートを住民や事業者だけではなく、中学生に対しても行ったということですが、若い世代の意識を丁寧に把握し、施策に反映させることは良い取組だと思いました。若者を中心に人口減少が進んでいますが、施策を考える上でアンケートだけでなく、例えば、転出・転入理由等を個別にインタビューするなど、全体の定量的な傾向の把握とあわせて、個別の定性的な調査・分析を行うことも重要だと思います。

資料によると子育て期（20～40歳代・女性）と子どもの転出超過が多いという中で、今後マンション建設などで人口が増えていく可能性があるかもしれませんが、府中町では男性よりも女性の転出が多いため、このような世代にきちんとアプローチをすることが重要だと思います。町長の開会挨拶にありましたが、「地方創生2.0基本構想」では、これまで若者や女性にアプローチできていなかった点も触れています。また、国が地方の転出要因として触れている、アンコンシャスバイアスやジェンダーギャップを自分の住んでいた地域に感じている可能性があるかもしれません。要因を考える上で、そのような視点を持つ事も重要かと思います。

○座長（上之園委員）

ほかにご意見、ご質問ありますでしょうか。それでは、活発なご意見を皆様からいただき、ありがとうございました。

本日の会議で、委員の皆さんからいただいた意見等も十分参考にさせていただきながら、総合戦略の策定を進めていただきたいと思います。

最後に、今後のスケジュールについて、事務局から何かありますか。

○政策企画課長

本日は大変お忙しい中ご参加をいただき、ありがとうございました。次回の会議につきましては、11月頃を予定しております。決まり次第連絡しま

す。なお、本日の会議の議事録を事務局で作成しますので、内容のご確認について、後日改めてご連絡させていただきます。

6) 閉会

○座長（上之園委員）

今後のスケジュールでございました。

それでは、議事を終わりたいと思います。

閉会にあたり、桑原副町長より、ご挨拶を頂戴したいと思います。

○副町長

本日は熱心なご意見をいただきありがとうございます。また、大変お忙しい中、本会議に出席いただきありがとうございます。

次期府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び人口ビジョンにつきましては、別途策定をしている府中町第5次総合計画の中で、一元的な取組を推進することと人口動態を把握していくことを説明させていただきました。

今後計画を明らかにしていく中で、適宜計画の中身やKPIなど皆様にお示しし、様々な角度からご意見をいただければと思います。本日いただいた具体的かつ多面的なご意見については、今後施策を推進していく中で盛り込んでいきたいと考えております。全国的に人口減少社会が到来する中で、府中町においても人口減少局面の入り口に差し掛かっており、このまま人口減少が続くのか、もしくは再び転入超過が起これ、人口増加となるかの瀬戸際にあると認識しています。人口減少を食い止めるために、あらゆる施策を打ち、様々な分野でご活躍されている委員の皆様から、今後も会議の中で意見をいただきたいと考えております。引き続きよろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございます。

○座長（上之園委員）

本日は、皆様ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。

大変お疲れさまでございました。

（午後3時54分閉会）